



ぬくもり

[平成22年2月15日発行]

2月号

No.
42

「心豊かな活力とうるおいのある住みよいまち・可児」を!

あすにむかつて

子どもの、あすをつくるのは大人の務めである



未来へしわ のあせ

思・い・や・り・の・心



目次

- 迎春のかがやき ①
 - 「恩を感じること」——本センター会長 杉山桂
- 特集「人権文化の光彩」 ② ~ ③
 - 平成21年度(第8回)人権啓発入賞「標語・300字小説」
 - (解説) 応募者総数: 1,452人(小学生1000人・中高一般452人)
 - ・人権教育優秀校 表彰 =本センター設立18周年を記念して、入賞作品の多い2校(小・中各1校)を表彰しました。(p3写真)
- コーナー ④
 - 壁の箴言(あなたは知っていますか?)——一気高き使命の縁とは、「日本ラインと名づけた人」の同志たち
 - 投稿だより(心田への薰風)
 - 健康で豊かな食生活を : 可児市学校給食センター所長 可児芳男
 - 高齢者と地域のかかわり : 可児市老人福祉センター可児川苑長 横田一秋
 - 人権まんが「ぬくもり・まゆちゃん②」他

行事報告

- | | |
|-----------------|-------------------|
| お礼 | 人権週間 H21 12.4~10 |
| ○講演会 渡辺千賀子(参加者) | ソプラノ歌手 約300名 |
| | |
| ○標語・300字小説展示会 | 12/4~10(来客212名) |
| ○街頭啓発 | 市長先頭に!(対話約1,500名) |

迎春のかがやき

「恩を感じること」

本センター会長 杉山 桂

新春を迎え、すでに皆様は、今年の思いの中スタートされたことと
思います。

今年も、世の中の多くが不透明感に溢れています。

私ごとですが、昨年の秋に叙勲の栄誉を授かりました。

長き人生を振り返ります時、多くの困難もありましたが、また多くの人

に支えられての自分が今ここにあるのだと、つくづく感じます。
人は、一人では生きられません。「持ちつ持たれつ」互いに恵み、支
え合う心が大切だと思います。

時代がどうあれ、常に恩を感じて生きていきたいものです。
新年度も本センターへのご協力よろしくお願いします。

発行

可児市人権啓発センター(可児市総合会館分室)

〒509-0203 可児市下惠土5166-1 TEL/FAX 0574(63)7990



可児ぬくもりネット

アドレス <http://www.kani-nukumorinet.jp/>

検索

平成二十一年度

・人権啓発入賞【標語】

1352作品
より選考

【最優秀賞】
 「ありがとう」小さな言葉で大きなぬくもり
 山本有紗(中学校三年生)

【優秀賞】
 やめようよ いじめ見ぬふり 知らんぷり
 清水ハルミ(小学校六年级生)

【優秀賞】
 だれとでも やさしく接する 思いやり
 小池佑美(小学校六年级生)

【優秀賞】
 消えないよ 相手につけた 深いきず
 田中秀治(小学校六年级生)

【入選】
 「たいじょうぶ」やさしく
 その手を さし出そう
 龜谷明音(小学校六年级生)

【入選】
 優しさは 人の心を 変えていく
 森 飛貴(小学校六年级生)

【入選】
 あたたかい 仲間の声に たちなおる
 太田彩水(小学校六年级生)

【入選】
 話し合おう 差別がなくなる その日まで
 澤出美砂(小学校六年级生)

【入選】
 こまつたら、家ぞくでお話 してますか?
 高橋季邦(小学校二年级生)

わたしから にっこりあいさつ きもちいい
 松井里奈(小学校一年生)
 やさしい手 だせるよきっと だれにでも
 中島 舞(小学校六年级生)

ありがとう たくさん言おう 心から
 岩柿秀幸(中学校二年级生)
 「ありがと」 心あたたまる その一言
 小柳咲希(小学校六年级生)

いじめと差別 未来に残すな この言葉
 龍井彩菜(小学校六年级生)
 いじめの個性 同じなのは 一人一人の命の重み
 斎丸陽介(中学校二年级生)

たとえ言葉が違つても みんな地球の仲間たち
 村上真菜(小学校六年级生)
 育もつ 皆の心に 勇気の芽
 岩瀬功夫(小学校六年级生)

思いやり 自分も相手も いい気持ち
 角谷真治(小学校六年级生)
 あいさつは 明るく過ぎず エネルギー
 三橋太(小学校六年级生)

おもいやり 持てばもつほど かっこいい
 平山 唯(中学校二年级生)
 共に生き 共に目標そろ 明るい未来(あした)

おもいやり 持てばもつほど かっこいい
 小林真奈(中学校二年级生)
 あいさつは なみだを笑顔に かえられる

吉田知樹(小学校六年级生)
 一言で なみだを笑顔に かえられる
 松田志織(小学校六年级生)

思いやり 人の心に 笑顔咲く
 有田 凌(中学校一年生)
 言つ前に 考えてみよう その言葉

優しさは 人の心を 変えていく
 大前慶一郎(小学校六年级生)
 あいさつは ね 人をきずつける こわいぶき

ぬくもりは みんながもつてる やさしさだ
 金 貴哉(小学校六年级生)
 あいさつは 心をつなぐ はじまりだ

人権は 人として生きる パスポート
 三宅陽平(小学校六年级生)
 弱いのは いじめるほつの そのじいの

さしだそつ だれもがもつてる やさしい手
 三品明里(小学校六年级生)
 声かけて 一緒に呼び合つ 啓発仲間

やさしい手 だせるよきっと だれにでも
 梅田真衣(小学校八年级生)
 救いの手 優しい心で 差し出そう
 大塚未来(小学校八年级生)
 いじめっ子 自分の心も いじめてる
 北原 涼(小学校八年级生)

やさしさは 人の心を あたためる
 日下部 琦(小学校六年级生)
 大じょっぷ みんなあなたの 味方です
 土谷華子(小学校六年级生)
 お手つだし わたしにまかせて おばあちゃん
 松井里帆(小学校二年级生)

一人ひとり 一つの命を 大切に
 山田紗弥香(小学校四年生)
 あいさつは ひとつひととの ひびきあい
 浅野瑠菜(小学校四年生)
 さしのべる その手が未来の 第一步

あいさつは ひとひととの ひびきあい
 奈須 紫(中学校二年级生)
 はじまりは とても ささいな 言葉から
 廣沢光水(中学校二年级生)

毎日の 会話で生まれる その笑顔
 原 亜衣(中学校二年级生)
 あいさつは 心と心を つなぐ力

伊達祐太朗(中学校一年生)
 破壊せよ いじめのかげを やさしさで
 近藤孝彦(中学校二年级生)

だれもが持つてる 小さな「勇気」
 それはきっと 「だからもの」
 河村菜未(中学校二年级生)

人の輪に 権利も入り 広がる手
 湧井忠治(一般)
 森井淳子(一般)

一人でね かかえこまずに 話してよ
 梅田真衣(小学校八年级生)
 救いの手 優しい心で 差し出そう
 大塚未来(小学校八年级生)
 いじめっ子 自分の心も いじめてる
 北原 涼(小学校八年级生)

やさしい手 だせるよきっと だれにでも
 梅田真衣(小学校八年级生)
 救いの手 優しい心で 差し出そう
 大塚未来(小学校八年级生)
 いじめっ子 自分の心も いじめてる
 北原 涼(小学校八年级生)

・人権啓発入賞

【300字小説】

100作品より選考

【優秀賞】

渡邊聖南 小学校六年生

私は小学校の時いじめられた。背が低く気が弱かったから。その時はとても苦しかった。

そして中学校に入り、私はいつの間にか人の悪口を言つて笑っていた。気ついた時にはまるで小学生の時の自分がいるようだった。

やめてよっ。やめて。」

だんだんとそのいじめられている子が私に思えて涙が出てきた。どうして自分がイヤだと思つた事を人に当たつているのだろつ。

そう思つた時、いじめられている子が弱いんじゃなくていじめている子が弱いんだ。本当は自分の気持ちにふりむいてほしいんだ。「ごめん。」他の人をいじめている人も同じ気持ちだるう。いじめをしてても何もならない。気づいて。

しかしA君は、ぼくを助けたせいで、いじめにあつてしましました。でもぼくはA君から勇気をもらいました。ぼくはまだいじめられているけどA君といじめに立ち向かっています。

A君が
「大じょうぶ。」

と助けてくれました。そして、

「何かあつたら言ってね。」

でも助けてくれる人がいるんだと思いました。

しかしながら勇気をもつてきました。ぼくはその時、こんなぼく

と言つてくれました。でもぼくはA君から勇気をもらいました。ぼくはまだいじめられているけどA君といじめに立ち向かっています。

自分で一步をふみださないといけない。お母さんの言つた言葉のいみがとてもわかつた気がして、何をするか、どう変わればいいのかを、自分でみつけっこつと思った。

私はある日、病院に行きました。廊下を歩いていると、看護師さんとおばあさんに会いました。

「こちらが病室です。」

看護師さんの言葉は、ゆつくりでした。おばあさんのためにやさしく話している看護師さんが、あたたかい人に思えました。

その後、私も看護師さんのようにやさしくできるかとを考えながら帰りのバスに乗っていると、おばあさんが乗つてきました。しかし、席は一つもあいていません。

「この席にすわってください。」

私は、おばあさんに席をゆずりました。

「どうもありがとうございます。」

そうお礼をされて今までうれしくなりました。

【最優秀賞】
後藤花菜(小学校六年生)
私の知つている男の子は、発達障害を持つてゐる。今日もまたその男の子に会つた。
「おはよう。」
と、声をかける。
「……。」

返事が返つてこない。それよりもいきなり自分の話をし始める。こんなかんじでいつもがスタートする。でも、私は気にしない。必ず答えてくれると信じてゐるからだ。何度も何度も聞き続けると必ず答えてくれる……。
だから私はその子が大好きだ。楽しい話や、おもしろい話もたくさんしてくれる。少しふつつの人とやるのに、にがてがあるだけだと考えてゐる。そんな人たちを弱い立場として考えないほうが良いといつも思つてゐる。

【入選】

亀井彩菜 小学校六年生

私たちの小学校に耳がきこえない女の子が転入してきました。私と同じクラスの子でした。

その子は耳が聞こえないから、どう話していくか分かりませんでした。さつそく帰つてその事をお母さんにいつたら、

「手話で話してみたらいいんじゃない。」
といいました。なので図書館で手話の本をよんでみました。次の朝、女の子は一人で本をよんでいました。私は勇気を出しておはようと手話をしました。女の子は少しおどろいた顔でおはようといつてくれました。それから一人は手話を通じて仲良くなりました。それをみていた前の友達も手話を通じて仲良くなつていきました。それから私と、女の子は大親友になつていまもずつと仲良くしています。

「この間がほしいなら、自分からかわつていけ。少しづつでいいで、自分から仲間の輪にはいれ。そうすれば、少しづつ仲間がふえるから。」その話を聞いてから、かわつていこうと思った。そのあと少しづつかわつていって、仲間もふえた。先生のあの話を聞かなければずっとあのままだつたと思う。あの話からの私は昔どちがう。

先生、ありがとう。

ある日、「一番私のことを知つてゐる先生が私にある話をしてくれた。

【優秀賞】
松本茉子(中学校一年生)
一人ぼっちの気持ち。一人ぼっちの一日。
毎日一人だけの世界に手をさしのべてくれたのはあの子だった。
いつものように教室のすみに座つていたら、となりに一人の子がそつと座つて、「あんた、悩んでるの？」と、聞いてきた。私は「別に」と答えた。そしたらその子が言った。

「友達が腹かかえて笑つていたら、私もそれ以上に笑う。友達が泣いていたら、大声で私も泣く。だからあんたが悩んでいたら、私も頭かかえて悩むことにした。」
その時私は一瞬にして、心が温まつた。そして決めた。この子にずっとついていこうと。

【入選】

乾 翔馬 小学校六年生

ぼくは、背が小さく、運動があまり得意ではありません。なのでみんなから、「チビ」などとからわれたり、スポーツをすると「下手」などといわれ、いじめられています。しかし、そんなぼくがいじめられている時に

【入選】
栄田晴可(小学校六年生)
さいきんは、頭が働かない。
じぶんがとまつてゐるみたいでいつもみたいで生きない。どんどん下におちてる。

でも、そだんできる人はいる。
母だ。すべて話すと、
「まつていても、変わらない。」

自分を変えないとまわりも変わらない」と言つた。

それは、いつもの自分から、あたらしい自分に変わらないといけない。
変わるためにまつていても、いけない。



「西可児中学校表彰式」にて

「人権教育優秀校」表彰(H21.11.10)

- ・小学校の部 帷子小学校
- ・中学校の部 西可児中学校

(次回表彰:H23年(予定)/但し募集は毎年)

気高き使命の縁とは

「日本ラインと名づけた人」の同志たち

名鉄犬山遊園駅から「木曽川左岸」上流沿いの「不老公園」に石碑がある。(江戸時代は岐蘇川といつたら地理学の権威「志賀重昂(しげたか)」が、「日本ライン」と名づけたとある。

可児からここ犬山までが、ドイツのライン川に景観だけでなく伝説史跡が酷似していたという。国が変わると、地理学・民俗学が盛んになる。明治から昭和初期の北海道教育界では、志賀のほか内村鑑三がいる。また特に、新渡戸稻造を中心に柳田国男・前田多門・小野武夫・牧口常三郎等でつくられた「郷土会」が有名である。

この中に、志賀を師と仰いだのが、牧口であった。牧口は、自著の「人生地理学」を志賀に校閲してもらい出版。これが「人文地理」のはしりとなつた。大正10年には、目黒の三笠小学校で、日本で初めて「学校給食」を開始している。また「通信教育」という考え方も牧口が初めて女性の権利高揚のために実施したという。

こうした多くの気高い同志が、それぞれの使命を感じて、お互いを乞い求め日本の各分野で活躍し、近代日本ができるのである。

(編者)

ぬくもりまゆちゃん②

〈あの思い出はどこに〉

作:タ・ズ/画:miho



投稿だより

心田への薰風

健康で豊かな食生活を

可児市学校給食センター所長 可児芳男

学校給食センターでは、安全で栄養バランスがとれたおいしい給食を提供するとともに、食育を推進するため学校給食を活用した食に関する指導に取り組んでいます。

季節にあった旬の食材を使用し、こどもの日々七夕などの行事食、金平ごぼうや切干大根の煮物などの伝統食を献立に取り入れ給食を提供していますが、こうした話に栄養や作り方などを交えた毎日の献立内容を給食時間に放送し伝えてもらうのもそのひとつです。

また、脂肪分や塩分の摂り過ぎ、生活習慣病などが心配される中で、センターの栄養教諭・学校栄養職員が学校へ赴き、自分の食生活に関心を持ち、体のための正しい食事のあり方を理解してほしい食習慣身につけてもらうよう指導を進めています。

食事の大切さ、喜び、楽しさを知り、食物やその生産・流通に携わる人々への感謝の心・給食の準備や後片付けをする中で他の人との協力や思いやりの心を育み、各地の産物や食文化を理解して健康で豊かな食生活となることを願つて今日も給食づくりに励んでいます。

高齢者と地域のかかわり

可児市老人福祉センター可児川苑長 横田一秋

近年、平均寿命の伸びや少子化を背景に、高齢化が急速に進んでおります。そんな中、介護医療に関して悩みを抱えている高齢者が多くなってきています。高齢者を介護する人が疲労やストレスで虐待をしてしまったり、金銭のトラブルに巻き込まれたりして、高齢者にかかる人権が社会問題となっています。近隣のある地域では「三世代の交流」としてグラウンドゴルフを楽しんだり、一人暮らしのお年寄りの慰問をしたり、食事会をしたりと地域の中で交流をしています。人はだれでも老いていくものです。人生の先輩であり、豊富な知識や経験を持っている高齢者が、住み慣れた地域で安心して生活でき、若い世代とともにいろいろな活動を通じ、ふれあうことによって、高齢期生き生きと暮らせる社会環境づくりが重要です。

私たちの施設も地域に愛され、皆様の交流の場としての役割を担つていきたくと考えております。



心のビタミン

新刊購入図書から

「山は、明日もありますか」(詩集)
桑原 律(詩人) 著 丹桂社
すどおりしないでください
かすみ草は 白い小花を
いっぱい咲かせているのですから
名まえも知らない花だからと
見ぬふりをしないでください
「ちっぽけな花だけがんばって
いるな」って
どうかひと言 声をかけてください
「すどおりしないでください」より

人権啓発図書貸出し中

編集後記(啓発のひかり)

新しい年が始まりました。

いかに時代が変わろうとも、
「昨日の自分は今日の自分じゃ
ないぞ、今日は又新しい自分だ
ぞ、明日も、その次の日も、日々
あたらしい自分だぞ」(司馬遼
太郎著より) のようにあります。
い時は、いつも刹那的で変化

の連続である。

人もまたそれその道を歩

みます。
この変化の大きな変遷をど
う自分のため、人のために生か
し時の節目を、変えるチャンス
「つづみみて日々に新たに、日
日に新たに、又日々に新たなり」
(大学)・中国・殷王朝の湯王
より)
スタッフ一同、温かな「ぬく
もり」をお届けできるよう努め
てまいります。

(編集者:川手靖猛)

後援企画

★「平和の文化」と子ども展

・3/13(土)~16(火)
可児市福祉センター
(10:00~20:00)
(主催:可児展実行委員会)

無料

★「この地球に生まれて」

・講師 中島好江
・6/13(日)
可児市文化創造センター(主劇場)
(アーラにて発売)
(主催:国際ソロブヂミスト可児)

入場料
2,000円

平成22年度主事業(予定)

- ①学校人権巡回制度
(ブックス・フロー)(6月~)
- ②標語・300字小説の募集
(7月~)
- ③ぬくもり講演会(12月4日)
・ぬくもりフォーラム
(7~8月頃)
- ④他
(人権相談・ホームページ啓発等)